

有限会社 銚子海洋研究所

認定テーマ名：

銚子ジオパークをはじめ銚子の地域資源を組み合わせた新たな着地型観光プログラムの提供

1. 認定を目指した経緯

有限会社銚子海洋研究所は、自社保有の観光船（愛称：フリッパー）を使用して、銚子にてイルカ・クジラ等の海獣類のウォッチング事業を展開してきた。銚子はイルカ・クジラの生息地として地域産業資源認定を受けており、同社の代表である宮内幸雄は、以前地元の犬吠埼マリパークに勤めていたが、銚子市の魅力を「イルカ・クジラウォッチング事業」を通じて発信していきたいとの思いから、平成10年に銚子海洋研究所を創業した。その後、銚子市観光協会や地元のNPO法人等と連携を行いながら、地域の活性化に努めてきた。

そのような中、平成23年3月に東日本大震災が発生し、当地域への観光客離れが発生し観光産業は低迷状態に陥ってしまった。震災以降、銚子市や銚子市観光協会を中心に銚子地域への観光客の誘致策を検討する中、平成24年9月に、銚子海岸の「屏風ヶ浦」「愛宕山・千騎ヶ岩・犬岩」「犬吠埼」「黒生・夫婦ヶ鼻・宝満」を代表とした「ジオサイト」を含む銚子市全域が「銚子ジオパーク」として認定され、当地域にあらたな観光資源が誕生した。

しかしながら、「ジオパーク」は学術的な要素が多いため一般観光客には馴染みがないものである。宮内代表は、この認定を機に、銚子に観光客を呼び込むためには、「銚子ジオパーク」の見どころである「ジオサイト」の見学のみならず、様々な銚子の地域産業資源を組み合わせ、身近な自然環境を「体験」し「学習」できる新たな着地型の観光プログラムを提供する必要があると考えた。

また、宮内代表は、イルカやクジラなどの海獣類に対する学術的な知識が豊富のみならず、「観天望気」（自然観察により、天候を予測する方法）といった古くからの知恵や、海辺の化石に対しても造詣が深い。このため、地元の学校等において講師としても招聘されている。新たに提供する着地型観光プログラムについては、こうした宮内代表の持つ知識（能力）を活かした、「体験」と「学習」をセットにして展開することで、銚子市の持つ魅力を総合的に発信し、地域経済や地域活性化に貢献したいと考えた。

一方、銚子海洋研究所の主たる事業である「イルカ・クジラウォッチング」は、季節や気象条件並びに野生生物が相手という制約を受けるため、いかにして売上の安定化を図るかが経営課題となっていた。海洋条件等の影響を受けにくい観光プログラムの開発は、同社にとっても課題を解決し売上の安定化に繋げるために重要なものであった。

しかしながら、新たな着地型の観光プログラムを行うにあたり、創業時の会社の場所（観光船が停泊している港から少し離れた所の船宿小屋を借りて営業していた）では実施が難しいため、新社屋の建設が必要であると考え、新たな事業計画内容と一緒に銚子商工会議所に相談を行った。商工会議所においては、親身な対応をいただき、新社屋建設用地の賃借について銚子市と調整を図っていただくと共に、国の認定事業の紹介を受けた。内容の説明を聞き銚子の活性化のためにも事業認定を取る必要があると考え、事業計画を作成し平成25年11月に地域産業資源活用事業計画の認定に至った。

2. 認定事業の現況

新たな着地型の観光プログラムを実施するにあたり、銚子市や銚子商工会議所の協力のもと平成28年4月に新社屋を建設した。場所は、観光船が停泊している港からすぐ近くのところである。現在は、当新社屋にて事業を実施している。

新社屋の1階には、受付や待合所、グッズ販売スペースなどを設けた。また、ビデオにて各種映像を流せるようにし、お客様に無料で飲み物も提供している。新社屋の2階にはプレゼンルームを設置して、宮内代表から海洋生物に関する知識や情報のみならず、当地域の



【新社屋の外観】

「ジオパーク」や自然、銚子の魅力に関する内容を、お客様に対して説明し伝える場として使用している。



【観光船（フリッパー）と屏風ヶ浦】

新たな着地型の観光プログラムとして、「ジオサイト」の屏風ヶ浦（固定天然記念物）を観光船（フリッパー）に乗って、海から間近に見るツアーを始めた。高さ40～50mの断崖絶壁、長さ10kmにわたる『屏風ヶ浦』の壮大な姿を海から観察する内容である。出航前には、新社屋の2階にて、お客様に「銚子ジオパーク」や屏風ヶ浦についての説明を行い、ある程度、知識や情報を得ていただいた後に、

お客様の目で見えていただくツアーである。陸から遊歩道を歩いて屏風ヶ浦を見るツアーは多くあるが、海から間近に見ることができるツアーは他にないため、好評をいただいている。

「ジオパーク」はあらたな地域産業資源として期待されてはいるが、地質学や地型学など学術的に説明される傾向が強い。専門用語も多く、古代の地層に対する一般顧客の関心度も低いのが実状である。そのため、多くの「ジオパーク」が一般観光客の誘致まで結びついていない現状がある。このような「ジオパーク」のイメージから抜け出すため、新たな観光プログラムについては「ジオサイト」の見学や、その生い立ちや魅力をわかりやすく説明する（学習する）だけではなく、古代を「体験」することができないかと考えた。

そこで、新たに「磯の生物観察会とビーチコーミング」と名付けた陸上ツアーを始めた。

「ジオパーク」内の一部の海岸では時には、約300万年前のサメの歯の化石やクジラ・イルカの耳骨の化石が見つかる時がある。このような海岸で化石探しを行い、お客様が化石を発見すること



【海岸での化石探しの風景】

によって「ジオパーク」を身近に感じてもらうツアーである。親しみやすいように、あえて「ジオパーク」の文字は使わず、「ビーチコーミング」と名付けた。お客様が探しやすいように、バケツやスコップ、篩などの道具は、あらかじめ準備してある。このツアーは、子供たちを中心に大人気で、「宝探し」感覚で直接「ジオパーク」と触れ合っていたりしている。

※ビーチコーミング (Beach combing) とは、海岸などに打ち上げられた漂着物を収集したり観察したりすることで、本来は売り物になる漂着物を拾い集めることである。現在、新社屋の1階で販売しているお土産品についても、ビーチコーミングによって拾い集めたものを材料に手作りした小物類が主である。

このような活動の結果、徐々にだが銚子の魅力を理解していただくお客様が増えていると感じている。しかしながら、荒天時には「ビーチコーミング」を含め、すべてのツアーを中止せ



【宮内代表による講義】

ざるを得ない。予約を取られて遠方から当地までこられたお客様には、大変申し訳ないが自然（天候）には勝てない。このような時には、お客様に対して2階のプレゼンルームにて1時間ほどではあるが、宮内代表から海洋生物に対する知識や銚子の海で暮らす生き物類、さらには、銚子の自然や「ジオパーク」に関する話（講義）を行っている。大人の方も真剣に耳を傾けて聞かれており、当地に来られたお客様の自然や環境に対する高い関心度がうかがえる。お客様から「天気の良い時に、また来るよ」との声をいただくのが、大きな喜びであり励みでもある。

3. 今後の展望（見通し）

新社屋での事業開始後、まずは「ジオパーク」をテーマに銚子の魅力を人々に伝えるための新たな着地型観光プログラムの開発を行ってきた。少しずつだが、成果が上がってきたと感じている。今後は、さらなる着地型観光プログラムの開発を行ってゆく計画である。その際には、銚子の持つ各種地域産業資源を有効に活用したものになりたい。そのためには、公的機関のみならず、観光協会や旅館組合、漁業者や農業者など地域の関連する多くの事業者の方との新たな連携が必要になると考えている。また、このような地域における横の連携を深めてゆくことで、銚子地域全体の魅力度の向上につながるものと信じている。

4. 利用した中小機構の支援策

認定計画遂行のため、中小機構の専門家派遣制度を活用して観光業に詳しい専門家を派遣して、具体的な観光プログラムの作成支援を行った。また、中小機構のチーフアドバイザーによるハンズオン支援を行った。

5. 企業概要

事業者名	有限会社銚子海洋研究所		
本社所在地	千葉県銚子市潮見町 15-9		
ホームページアドレス	http://www.choshi-iruka-watching.co.jp/		
設立年月	平成 10 年 3 月		
資本金	3,000 千円	従業員数	3 名
売上高	全体 10,236 千円、認定事業の売上高 9,111 千円		

※売上全体は平成 28 年 2 月 29 日現在

※認定事業の売上高は平成 28 年 12 月 31 日現在

6. 認定事業の概要

テーマ名	銚子ジオパークをはじめ銚子の地域資源を組み合わせた新たな着地型観光プログラムの提供
テーマの概要	洋上からの観察等を含め、「ジオパーク」をはじめとする様々な銚子の地域産業資源を組み合わせ、身近な自然環境を体験できる新たな着地型の観光プログラムを提供する。
認定期間	平成 25 年 11 月 1 日～平成 29 年 2 月 28 日